

中国が日本を捨てる日 ～食料自給率39%の贅沢～

今月は少し趣向を変えて4月に放送されたテレビ番組を紹介したいと思います。題名は「中国が日本を捨てる日～食料自給率39%の贅沢～」という番組です。番組のホームページでは以下の様に紹介されております。

===中国のある農家を訪ねた。農薬を使い始めたのは10数年前。日本は虫食いのない見た目がきれいな野菜の大量生産を求め、農薬を持ち込んだ。農家はこぞって畑に農薬の袋を立て「うちはこの農薬を使っている」「きれいな野菜を作っている」とアピールした。ところが今、中国では後継者が離農したり国内向けの生産に切り替えたり…、いわゆる“日本離れ”をする農家が出始めている。食料自給率40%を切った日本。慣れない農薬の規制や日本の細かなニーズに疲弊する中国。その動向は、日本が食料を都合よく調達できる保証を奪いかねない。===
番組では、

①日本向け野菜の生産農家の話

従来は農薬を使わなかった(高くても買えなかった)が、日本向けの野菜は“形が同じで虫食いのない野菜”でないと買い取ってもらえないという日本側の要求により使い始めた。しかし栽培方法や出荷規格等が厳しく検査に合格しないと買ってもらえないために“日本向け野菜の生産はやめたい”と言い、実際に中国国内向けに切替え始めた姿を映していました。中国国内の消費が増加している事と好景気により離農が増加(工場従業員月収15,000円に対し農家の平均月収5,000円)している事も要因とも。

②北海道産餃子の話

毒入り餃子事件に端を発し、コープさっぽろでは中国産をやめて北海道産の材料のみで冷凍餃子を作った所、1個10円が50円と中国産の5倍となってしまったという事実。それを企業努力により40円での販売を計画したところ“4人家族で1人10個、家族分買うには高すぎて買えない”という消費者の声。

輸入加工食品の70%に関与する中国、日本の食品業界は中国を無視できる状況ではないので日本側が変わる努力しなければ調達が可能になると指摘する。

自給率が低いのに食料廃棄率は信じられないほど高く、虫の食った野菜、形の悪い野菜は認めない、弁当のフライも重量は同じは良いにしても形が同じで無いといけない、その上、安くなければ購入しない。こんな我がままな贅沢な話はない。と結んでいます。作り手が消費者に文句を言うてはいけません。作り手は消費者の要望に応えようと努力する事は当然の事ですが、こんな状況でもそうなのではないでしょうか?考えさせられる衝撃的な番組でした。

●8月31日は「やさいの日」

昭和58年に食品流通構造改善促進機構が栄養価が高く優れた食品である野菜を消費者に再認識してもらおうと始めたそうです。

8月31日は“やさいの日”
～やさい食べよう!!くだもの食べよう!!～

みなさん、8月31日は「8・3・1」の語呂あわせで『やさいの日』です。
JAグループでは、この日にちなんで、やさいとくだものに触れるイベントを開催します。
東京都内では、丸の内 oazo や農産店にて、やさい・くだものにまつわるシンポジウム・情報発信イベントを開催します。
夏休み最後の週末にぜひご家庭でお越し下さい。



値上げのお知らせ

毎月のように値上げのお知らせばかりで恐縮ですが、今月は①ベッドシート②亜リン酸③発泡スチロール関係(ベッド・パネル・育苗箱・ゲタツポ等)です。③については今年4月に値上げがあったばかりですが再値上げとなってしまいました。

皆様が厳しい環境にある事は重々承知しておりますが、弊社としても転嫁せざるを得ない状況です。弊社商品をご愛顧いただいております皆様には諸事情ご賢察の上、今後とも何卒ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。